

# Pentium G3258

## 殻割り手順

低価格でオーバークロックの練習が行えるPentium G3258で殻割も学んでしまおうという今回の企画

いきなり3万円もするCPUを殻割りするのは怖いという方におすすめです。

用意する物



マスキングテープ

カミソリの刃 (0.3ミリ)

CPU購入時に付属してくる透明ケース

(正式名称不明)

手順1

養生



初心者の方はカミソリで基盤を傷付ける可能性があるのでマスキングテープで基盤を保護し  
なれてくれば不要になる

手順2

切り込み1



写真の様に右側から刃を入れる

理由は二つある一つは左側にはチップが並んでいるのでそれを傷付けない為もう一つは右側斜め上の回路はメモリーに繋がる回路なので万が一傷が付いてもメモリーが4枚認識しなくなっても1枚なら認識すると言った感じで完全に殺す可能性が低くなる為であるしかし完全では無いので細心注意が必要である今回は初心者向けの説明なのであえて右斜め上の基盤に傷を付けてみる事にしよう

手順3

分離



ここで使うのがCPU購入時に付属してくる透明ケース  
である写真の用に持ち



先ほど入れた切れ込みから差し込んで



写真の矢印線に沿って一周する





1周すると分離が完了する

切り込み説明時に説明した右上の傷がどれ程有効なのかを試して見よう



写真で見て解る通り基盤に傷が付き  
下の銅が少し剥き出しに成っている  
これで起動出来るのかを調べて見よう

一番右側のメモリスロット1本にメモリーを刺した  
状態でなら起動が出来た



今回の検証で解る通り  
右斜め上から切れ込みを入れる事で  
完全にCPUを殺す可能性を低くする事が出来る

## 注意

万が一殻割りによって、感電、出火などの事後が発生しても当方は一切の責任を負いかねます

殻割、検証は自己責任で行って下さい